事例25　　単元　「ハードル走（陸上競技）」

自分にあったハードル走を見つけよう

保健体育　第１学年
かほく市立宇ノ気中学校・教諭

１　事例の概要

本校生徒は、与えられた課題に対してはまじめに一生懸命取り組むが、自ら課題を見つけ主体的に取り組む学習には、やや課題がある。そこで、本校保健体育科では、「自分に適した課題を持ち、実践・評価していける生徒の育成」を研究テーマとし、①個に応じた学習活動の展開、②支援と評価の工夫、③課題解決型学習の工夫の３点を重点に実践に取り組んでいる。

本事例は、各自の技能段階に応じて課題と練習方法を選択し、ペア学習で取り組んだものであり一人一人に応じた学習活動を展開することで、基礎・基本の定着と課題解決型学習を中心とした確かな学び方を身につけさせることをねらっている。

Ａ－１　本校保健体育科の基本的な考え（１６年度研究紀要より）

２　実践内容

(1)　単元目標

自分の技能段階に適した課題と練習方法を選択し、インターバルやハードリングの技能を高め、自己の記録を向上させる。

(2)　指導上の工夫点（視点）

① 個に応じた学習活動の展開

単元の導入（ねらい１）の段階では、ハードル走の基本的な技能を共通課題として取り組ませ、評価活動（技能チェック等）を通して、各自の長所・短所を見つけるようにし、次の段階（ねらい２）では、技能チェック表から、課題と練習方法を選択し、各自の技能段階に応じて取り組ませることにより、一人一人の学習意欲を高め、基礎・基本の確実な定着と学ぶ力の向上を図った。また、より多くの場（インターバルの種類、各自の課題に応じた練習の場）や各自の目標タイムを設定することで、能力差を苦にすることなく、一人一人がハードル走の特性に触れ、楽しく授業に参加できるようにした。

② 意欲の向上につながる支援と評価の工夫

個人ノートに、毎時間の課題や練習方法、自己評価を記入することで、一人一人の意識を高めるとともに、その点検や活動観察を通して、個々に対する具体的な指導目標や支援計画を立てて意図的に関わった。

２人組でペアを組んで相互評価（技能チェック）することで、学習が孤立することなく、互いに教え合い高め合う雰囲気づくりに努めた。また、記録の良い生徒だけでなく、伸びの大きい生徒を毎時間紹介し、全ての生徒が認められるような場づくりを心がけた。

評価規準を目標行動として生徒に示し、毎時間自己評価させ、定着を図った。

③ 意欲を高める課題作りや課題追究の工夫

自己分析、課題の設定、練習方法の工夫について、段階的に整理された資料を提示し、考える時間を確保することで、全員が各自の段階に応じて課題を持って授業に臨めるようにするとともに、課題解決型学習の学び方を身につけられるようにした。

Ｂ－１ 単元目標、教材観、生徒観、指導観　**Ｂ－２ 指導計画、評価計画**　**Ｂ－３ 学習ノート等**

3　指導の実際

段階	学　習　活　動	時間	支援（・）と評価及びその方法（★）
つかむ	３．各自の課題と練習方法を確認する。	５	・意識の薄い生徒に発表させ、意識づける。

共通課題

インターバルやハードリングの技能をさらに高めて自己の記録を伸ばそう。（ねらい２）

↓

前時の技能チェック → 個人の課題（11の課題から選択） → 練習方法 → 9種類から選択／練習の場 → 9種類から選択

段階	学　習　活　動	時間	支援（・）と評価及びその方法（★）
高める	４．各自の課題ごとに練習する。	１５	・同じ練習場所で取り組む者同士でアドバイスしあうことを確認する。 ★課題を意識し、意欲的に練習に取り組んでいるか。（活動観察 A-5）
確かめる	５．記録の測定と技能チェックをする。	１５	・練習場所を巡回しつまづきの見られる生徒には積極的に指導・助言する。 ★インターバルを３歩のリズムで走ることができたか。（学習ﾉｰﾄ　活動観察 B-3）
ふりかえる	６．本時の反省をし、次時の課題と練習方法を決める。 ＜技能チェックを基に＞ ・次時の課題と練習方法の決定 ・自己評価	１０	・できなかった原因を考えやすくするために技能チェックを参考にする。 ・記録の向上した生徒、得点の大きい生徒や技能の向上した生徒を１人でも多く見つけ、その努力や取組みを認める。

Ｃ－１　指導案　（展開）

4　成果と課題

(1)　個に応じた学習活動の展開

個人の課題に応じたより多くの場づくりをしたことや記録の伸びに目を向けさせたことにより、能力差に関係なく意欲的に学習に取り組むことができた。７月に実施した本校授業アンケートでは、①意欲的に取り組んだ 88%　②授業はわかりやすかった 91%　③毎時間課題を持って取り組めた80%　④体育が好き 84% と、どの項目も全教科の中で一番高い数値を示した。また、全員が記録を向上させ、75%の生徒が目標記録に達することができた。ただ、練習の場づくりに時間がかかるため、今後効率的に行える方法を探りたい。

(2)　意欲の向上につながる支援と評価の工夫

毎時間観点を１．２点に絞って評価し、評価規準に到達しないの生徒への支援を工夫したことや個人ノートへの個別アドバイスにより、一人一人の学習に寄り添うことができ、始業時間前に学習を始めたり、休み時間に練習するなど、生徒の積極的な学習への姿勢を引きだすことができた。

評価規準を生徒に示し、評価させたことにより、それを目標として生徒が行動し、授業の質的な高まりを感じることができた。また、ペアで取り組ませたことで、互いに励まし合い助言しながら取り組む温かな雰囲気も生まれた。今後は評価内容の精選が必要であると考えている。

(3)　意欲を高める課題作りや課題追究の工夫

各種資料、友達からのアドバイス等が助けとなり、全員が自分の課題や練習方法を持って意欲的に学習に取り組むことができた。また、授業の途中で次の課題に積極的に挑戦しようとする姿も見られ、課題解決型学習方法（学び方）が少しずつ身についてきた。

Ｄ－１　生徒アンケート　　**Ｄ－２　その他の実践（指導案含む）**